



# 校長便り (職員編)

呉市立阿賀小学校  
安宗 誠

## 「居場所ふかめ・ひろげ」(小中一貫教育研修会)

研究の方向性について  
～西林教諭(阿賀中・研究主任)による説明～



講演「主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒の育成のために」  
広島工業大学 竹野 英敏 教授



### 【研究の方向性のキーワードの数々】

- ・「居場所ふかめ」「居場所ひろげ」：これまでの「居場所づくり」と基本的には同義。1人1人の居場所をどう深めようとし、それがどう深まっていったのか、又どう広げようとし、それがどう広がっていったのかをよりつぶさに見ていこうという意味合いを強調した。
- ・授業における居場所ふかめ・ひろげ  
「問い」→「選択・自己決定」→「発展的振り返り」→「主体学習(家庭学習)」の流れ
- ・生活における居場所ふかめ・ひろげ
  - ・登校していない児童生徒への・・・
  - ・登校しているが教室に行けない児童生徒への・・・
  - ・教室にいるが、居場所とは感じていない児童生徒への・・・

### 【講演のキーワードの数々】

- ・居場所に必要となる条件：「わがまを認めてあげる」「感謝する」「謙虚になる」
- ・ICTは子供の力を引き出すツール
- ・学校で学ぶこと：特に重要なのは、「社会的スキルの育成」「問題解決能力の向上」
- ・達成度を公平に評価する指標：企業では、「主体的に活動した経験値」等が特に重視される
- ・「文化資本」を理解する
- ・自己肯定感・自己有用感が高まるのは：「安全欲求」「尊重・承認欲求」が満たされるとき
- ・「お互いをあてにし、あてにされ合う人間関係」
- ・苦しさを乗り越えるのは、「物的環境」より「人的環境(仲間とのつながり)」
- ・「自立」と「孤立」を混同しない
- ・「協働的な学び」とはお互いを助け合う必要性を学ぶこと
- ・「分かった・できたが実感できる授業」
- ・興味・関心を「活かす」授業から興味・関心を「育てる」授業へ